



毎週土曜日、希望者は近くにある街ランレーに出かけることができます。スーパーで買ったジュース片手に、みんなでおしゃべり!

イギリスで学ぶ

小学生新聞 別刷り特集

全寮制の日本人学校 立教英国学院

1972年、ヨーロッパで最初の全寮制日本人学校としてイギリスに開校した立教英国学院。100万平方メートルもの広い校舎で、イギリスならではの自然や文化に親しみながら、小学6年生から高校3年生127人が生活しています。イギリスでの学校生活をのぞいてみました。【中嶋真希】



自然に囲まれた広大な敷地で、のびのびとした学校生活

校舎は豊かな自然の中

立教英国学院は、ロンドンから急行電車30分ほど行ったウエストサセックス州にあります。広い敷地内は朝になるとウサギが駆け回り、夜になればハリネズミが顔を出します。「くまのプーさん」の舞台になったアッシュダウンの森も近く、まるで童話の世界。そんなのどかな場所で、127人の生徒が暮らしています。乗馬に挑戦したり、習った英語をすぐに街で試したり。「日本ではできないですね。動物がいっぱいいて、とても楽しいです」と中学1年の今田宇咲さんは話します。

もともとは、海外で暮らしている日本人家族向けの学校でしたが、今年から家族が日本で暮らす生徒も受け入れるようになりました。生の

英語環境の中で国際性を身につける一方で、日本の学校に遅れないように勉強もできる。日本人としての誇りを持ちながら、異文化体験がで

きるのです。全寮制のため、先生や生徒と家族のように過ごせることも魅力です。

＝特2・3面につづく



街に出かけ、地域の人に話しかける英語の授業。この日は、「立教英国学院のことを知っていますか?」という質問を聞いて回りました。「知っているよ!」と写真の男性

＝特1面からつづく



英語で生物の授業を受ける高校2年生。この日は、砂漠の植物について勉強しました

違う文化をもつ相手を受け入れる心を育む

自立を目指した寮生活

立教英国学院の朝は、生徒会が鳴らす鐘の音で始まります。起きたらベッドをきれいに整えて、中庭でラジオ体操。ホールに移動し、朝ご飯を食べます。寮生活では時間厳守。全員がそろったら、お祈りをして食べ始めます。キリスト教に基づく教育をしている立教では、食事後、チャペルで聖



毎朝、ベッドをきれいに整えてから授業に出かけます

歌を歌ったり、聖書の一節を聞きます。礼拝が終わると、授業へ向かいます。

全寮制ですから、自分のことは自分でできるようになり、10代から自立できるのも魅力です。食事の配膳や片付けも全員の仕事。全員がそろって食事を運んだり、皿に取り分けたり。フォークと



朝起すときなど、全校生を呼び出すのに使う鐘。チャイム代わりに、上級生が鳴らします

ナイフを上手に使うテーブルマナーも上達。新入生は、先輩やヨーロッパでの生活が長い生徒の食事の仕方を見て覚えていきます。

寮の部屋もきれいです。毎朝、ベッドを整える「ベッドメイク」は習慣として根付いているので、女子寮はもちろん、男子寮もきれいです。週に1回、洗濯物の提出や靴磨きもあります。身の



朝は、ラジオ体操から始まります

回りのことはすべて自分でやる。立教に入ってから3週間という小学6年の大野菜々子さんは「日本では洗濯物の片付けも親にやってもらったけど、慣れてきました。全部自分でがんばれそう！」と自信がついたようです。



クラシエへお出かけ。スパーでの買い物も楽しみます。「このお菓子にしよう」

幅広い授業内容

「6か月間、なんでもしていいって言われたら、どうする?」先生の質問に、「旅行に行く」「ボランティアをしようかな」と英語で答える生徒たち。イギリス教師が英語を教えるEC(イングリッシュ・コミュニケーション)の授業を週に4時間受けます。レベルごとに分かれ、少人数で指導を受けることができます。

覚えた英語はすぐに実践に。英語の授業で近くの街まで行き、地元の人たちに「Rikkyo Schoolのことを知っていますか?」「この街のどんなところが好きですか?」と聞いて回り、レポートを書きます。土曜日には、クラシエという小さな街に買い物に出かけることも。習いたての英語が



理科の授業は、校舎の外に出て自然の観察。大きなキノコを見つけました

街に出れば、すぐに生の英語を勉強できる



「どんな人が写ってる?」写真を説明しながら、英語の授業数を増やします

通じると、喜びもひとしおです。こうやって、小さな成功を積み重ねることで、英語にどんどん自信がついていきます。

長い休みには、地元の人々の家でホームステイもします。中学1年の檜岡詩英梨さんは、「最初は日本の学校に進むつもりだったけど、ここに来て良かった。街に出れば、すぐに生の英語を勉強できるところがいいです」と話します。中学3年生になると、イギリスの現地の生徒と同じ理系の科目を英語で受ける授業もあります。

力を入れているのは、英語だけではなくありません。国語や数学、社会などは、日本の学校と同じ授業を受けます。日本人として教育を受け、さらにイギリス文化の良いところを取り入れるのが

Rikkyo流。日本語の遅れを心配することなく、日本の大学を受験できます。

音楽やスポーツで豊かな心を

音楽の授業では、それぞれ得意な楽器でアンサンブル。木琴やピアノに加えて、トランペットやバイオリンも参加します。11月にあった、地元の人たちなどを招いたオープンデーでは、中学1年が、音楽の授業で練習した「オズの魔法使い」



▼それぞれの得意な楽器で、音楽の授業を受けます



▲上級生しか入部できないギター部は、みんなのあこがれ。専用の小室で思う存分、歌って演奏します

を披露しました。

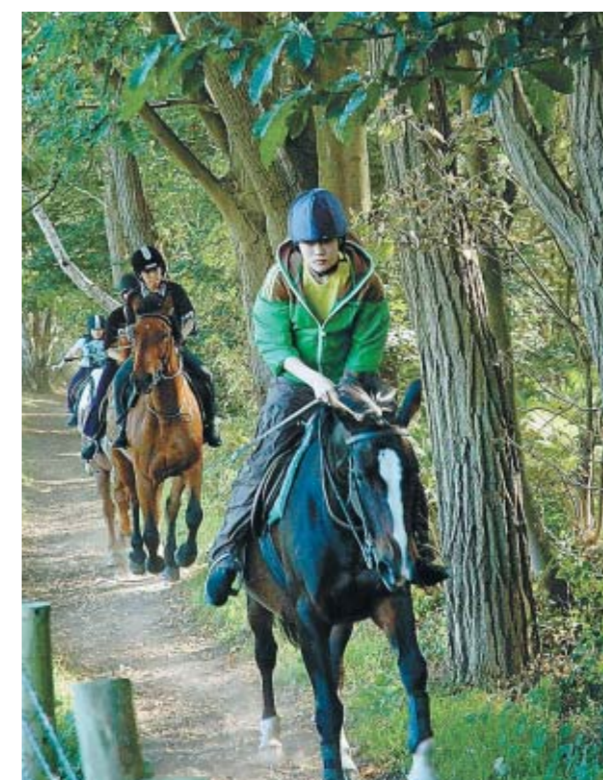
放課後の個人レッスンで楽器を習得することもできます。学校の広い芝生でバグパイプの音を響かせていたのは、高校3年の蓮田涼さん。スコットランド民謡が好きで、今年に入ってから始めました。

バイオリンを極めたくてイギリスに来たという中学2年の松田祐理子さんは、放課後に練習していると、みんなが聞きにくほどの腕前。校内コンサートでは、客席から拍手喝采が起こりました。

スポーツも盛んです。校内には、サッカー場、テニスコート8面、400坪の陸上競技場があります。放課後、テニスを楽しんでいたのは中学1年の弓井蘭斗君。「ウィンブルドンで買ったんだ」と見せてくれたのは、テニスの聖地、ウィンブルドンの記念ボール。立教では毎年6月、全校生徒でウィンブルドンまでテニスを観戦しに行きます。高いレベルのスポーツを身近に体験することができるのです。

金曜日の午後は、「フライデースポーツ」とい

って、全員が校外外でスポーツを楽しみます。人気の乗馬は、馬に乗って自然の中を駆け抜けます。



フライデースポーツでは、乗馬を選択することもできます。大自然を馬に乗って駆け抜けるのは、イギリスならではの体験

す。「パブリック フライドルウェイ」という、馬が走る道があるイギリスならではの体験です。

国際性をはぐくむ

「イギリスで勉強することで、日本を外から見られるようになります」と棟近総校長は話します。「また、イギリスと日本、それぞれの良いところ、悪いところが見えてくるようになります」。たとえば、イギリスでは、電車が時間通りに来ないし、水や電気が止まったりすることもあります。コンビニもありません。「でも、受け入れられるようになります。相手を受け入れることは、さまざまな文化を持つ外国の人たちと付き合っていくのに、とても大事な感覚です」と棟近校長。大勢の生徒と寮生活を送り、日本とは全く違う文化の国で暮らすことで、これからの国際人に必要な広い心が育つのです。

●学校説明会があります●

12月9日午後2～4時、東京・池袋の立教大学大井川記念館多目的ホールで学校説明会があります。問い合わせは、立教英国学院東京事務所(電話03・3985・2785)へ。